

## 切ない事件

北海道教育委員会は、10月3日に開催された委員会において、校長の登用試験でカンニング行為をしたとして上川管内の小学校教頭A（57歳）を停職3か月の懲戒処分に付した旨を発表しました。

発表によると、A教頭は9月8日、旭川市で行われた学校長の採用候補者選考の論文試験で、自作の論文を表裏に縮小印刷した紙2枚を会場に持ち込み、試験中に見ていたところを試験監督員に見つかったとの事です。

A教頭は退職願を提出しており、北海道教育委員会は受理する方針のようですが、このような事で学校を去る事になったA教頭はさぞかし不本意だとは思いますが、しかし、公正であるべき登用試験を自ら汚してしまった以上、止むを得ないでしょう。

A教頭は、メモの持ち込みを認めています。「答案を確認するためだった」と話しているとのこと（10月4日付読売新聞）。これは、想像するに、「答案は実力で書いたもので、メモを写したのではない」という事を言いたかったのかも知れません。だとすれば、痛々しい限りです。

カンニングといえば、学校での定期テストや大学入試でのカンニングというのは聞いたことがあります。私は寡聞にして校長登用試験でのカンニングは聞いたことがありません。北海道教育委員会も、さぞかし驚いたことと思います。

57歳にもなって分別もあるはずだと思いますが、逆に、A教頭がこの選考を受けるのは4回目、57歳という年齢から今回は最後のチャンスだったそうですから魔が差したともいえるわけで、私は、今回の報道を見て、切ないなあとも感じたところです。

A教頭が校長になりたいと思う気持ちは良く理解できますが、それにしても彼は一体、カンニングという大きなリスクを冒してまでどうして校長になりたかったのでしょうか。

校長というのは、学校経営の責任者です。学校運営に当たって大きな権限が与えられていますが、同時に責任もついて回るという事です。

校長は組織のトップであり、地域の名士でもありますから、憧れを持つことは分かります。

しかし、いじめや学力問題など課題が山積しており、保護者や地域からは学校の対応に対して厳しい目が注がれている中、責任の大きさを考えると、校長というのはそんなに楽な仕事である筈はありません。

A教頭には、校長の表面に見えるカッコ良さに惹かれて一番肝心な事、すなわち、「校長は、まず自らを厳しく律していかなければ強いリーダーシップは発揮できないものだ」という事に思いが至らなかったのではないかと思います。

誠に、残念に思っています。（塾頭：吉田 洋一）